金属建材 規格品化で納期短縮

菊川工業

「セミオーダー建材」シリーズ化 第一弾、「エキスパンドメタル」発売

金属製内外装工事などを手掛ける菊川工業（社長・宇津野嘉彦氏）は15日、製品の一部を規格品化したセミオーダー建材「キクカワ・シティ・テクスチャー」（KCT）シリーズを発売すると発表した。

KTCシリーズ第一弾として、アルミ製エキスパンドメタルを今月から販売する。オーダーメードでは使用の決定や製作に時間が掛かっていたが、規格化することで納期や価格の面で新規開拓の幅を拡充。改修工事や建物の省エネ化を目指す施主や設計事務所へ提案していく。

エキスパンドメタルは、下地取り付け可能部分が通常製品と比較して少なく、機能性と意匠性を両立した固定工法が課題だった。またオーダー製品での場合は高額で納期が掛かっていた。菊川工業が規格品化した新取り付け工法は、従来のオーダー製品製作のノウハウや実績を集約したもので、機能性や意匠性・施工性向上を確保している。また標準化することで、固定部の強度・重量計算の簡略化などの検討時間、金型製作期間や製作費を抑えることで、従来の特注品と比べて2週間の納期短縮と2割のコスト削減を実現した。

KTCシリーズの販売窓口を子会社のキクカワタクトとし、代理店を通じた販売も進める。合わせて新規製品のラインアップを拡充。製作面でも他材質や仕上げ、パターン、寸法をはじめとするオーダー、パンチングや曲げ、3次元形状といった金属加工と組み合わせ、顧客への提案を推進する。

エキスパンドメタルは、千鳥状に入れた刻み巾をひし形や亀甲型に圧延したメッシュ状の金属板のことで、フェンスや自動車車体部品、通信機器など幅広い業界で使用されている。建築業界では、適度な遮断性と開放感を確保できることから、ルーバーやファサードとして採用されている。

長谷川工業

「はしご兼用脚立」発売 4脚同時に上部で伸縮可能

はしご・脚立のパイオニア長谷川工業（本社・大阪市西区、社長・長谷川泰正氏）は、業界初となる4脚同時に上部で伸縮作業ができる、アルミ製はしご兼用脚立ニューラビット「RYH」＝写真＝を21日から発売する。

「RYH」は天板高さが1・02～1・33㍍、1・31～1・63㍍、1・61～1・92㍍、1・91～2・22㍍の4タイプがある。価格は2万9千円～4万1千円。

同製品は脚部の伸縮レバーが上部にあり、立ったまま操作が可能。両手で同時に操作ができ、すべての脚の長さ調整を一瞬で行うことができる。脚部は6㍉ピッチで調整が可能で、わずかな段差のある場所でも安心して作業することができる。

同社は安全・安心かつ便利な製品の提供を通じて、作業現場の効率化をサポートしている。特に高齢化が進む建設業界にお薦めの製品だとPRしている。長谷川工業は、製品の安心・安全を軸とした商品開発を成長戦略に掲げている。同社では「今後も製品の品質向上だけでなく、より安全な生活シーンを提案することで、お客様の安心・安全を高めていきたい」としている。

ヘンケルジャパン

構造用接着剤の新製品を発売 アルミなどでも接合可能

化学・消費財メーカーの独ヘンケルの日本法人ヘンケルジャパン（本社・東京都品川区、社長・金井博之氏）は16日、ハイブリッド構造用接着剤の新製品「ロックタイトHY4070ハイブリッド構造用接着剤」＝写真㊤＝を6月から販売すると発表した。鋼板やアルミ板などの金属製品にも使用することができる。超速硬化と汎用性に優れる製品をメンテナンスや生産ライン向けで拡販するとともに、接合用途として幅広い需要分野に提案していく。

横浜・磯子のアジアパシフィック技術センターで16日に開催されたメディア向け説明会では、アジアのマーケティングディレクターであるマーク・ナゲル氏＝写真㊦＝が「ハイブリッド接着剤は既存の4製品も含めて今年も5月までに2億円程度販売している。新製品を上市しさらに営業を強化する」と説明した。説明会では新製品の紹介に加えて、ヘンケル社の接着剤開発65年の歩みについても解説。さらに自社設備で新接着剤の接着性能などを紹介するデモ実演も実施した。

「金属原料ビジネス再認識を」

橋本アルミ・橋本健一郎取締役

中国のスクラップ購入停止 「新たな"ゲームチェンジ"に」

橋本アルミ（本社・大阪市浪速区、社長・橋本寿郎氏）の橋本健一郎取締役は「ゲームチェンジの一例を挙げれば、ガソリンエンジンでは日本に勝てないからEV（電気自動車）化を進めるようなこと。我々の金属ビジネスでも使われようとしている」と話しを切り出す。

日本でも世界でも、ゲームチェンジでメジャープレーヤーが次々交代する産業は増えている。小売業を筆頭に、自動車・医薬品・金融・サービス業などで、ゲームチェンジが起こりつつある。

「我々の仕事である金属原料卸売は、原料を品質別、用途別に選別して付加価値を付けることが仕事。付加価値がついた金属＝商品は、電気銅建値をベースに値段が決まった。付加価値を付けている我々側に、価格決定権はなかった」

約30年前から中国の経済発展に伴い、金属需要が台頭。電気銅建値を上回る値段で中国に輸出され、それに追随したという。

「これがまさにゲームチェンジ。ただ、それも過去の話。2018年末には、その中国はほぼスクラップを購入しなくなるだろう。他国では中国ほどの需要はない。中国価格が無くなれば今後はまた、メーカー主導の価格がベースとなるだろう。ここでもゲームチェンジが起こる」

そのため橋本氏は今後、付加価値が付かなくなったモノ（雑品スクラップ）の処理で問題が生じるという。

「国内でそれらは原料の卸売だと、再認識して対応した方が良さそうだ」

橋本アルミは本社と大阪市住之江区に住之江流通センターを置き、銅・アルミスクラップなどを月間300～500㌧扱う関西有数の金属原料卸業者。

（白木　毅俊）

海外非鉄週況（5月7日～11日）

▼銅＝直物は週間ベースで86・25㌦高、3カ月物は88・00㌦高と、それぞれ3週ぶりに反発した。

今週は中国の貿易統計の良い内容にもかかわらず、ドル高に圧迫されて非鉄市場の反応が限定的だったことに市場関係者から驚きの声が相次いだ。ただ、週後半にはドルがやや弱くなり、非鉄の持ち直しが進んだ。

来週は15日に中国の鉱工業生産や小売売上高の発表が予定されており、市場の関心が集まりそうだ。

▼アルミ＝直物は42・50㌦安、3カ月物は32・00㌦安と、いずれも反落した。

▼ニッケル＝直物は75・00㌦高、3カ月物は90・00㌦高と、それぞれ3週ぶりに反発した。

▼鉛、その他＝鉛は直物が58・50㌦高、3カ月物が67・25㌦高と、いずれも3週ぶりに反発した。

亜鉛は直物が111・50㌦高、3カ月物が111・00㌦高と、それぞれ3週ぶりに反発した。

スズは直物が425・00㌦安と3週続落し、3カ月物が390・00㌦安と反落した。

	確定	出来高
	－	190,524
		200,606
		154,092
		171,344
	－	7,077
		7,069
		8,587
		5,603
	－	80,210
		85,449
		81,342
		79,586
	－	3,080
		3,078
		3,087
		3,088
	－	131,871
		116,186
		104,688
		110,080
	－	334,365
		442,762
		340,126
		368,986
	－	186
		168
		324
		250
	－	471
		3,801
		701
		1,087

SAA

（地時間）
（オンス）
定出来高

	76,892
	158,715
	106,557
	141,753
	101,258

ノベリス

米国新工場の鍬入れ式開催

アルミ圧延世界最大手の米ノベリスは14日、米国ケンタッキー州に建設を予定している自動車パネル材の仕上げ加工工場「ガスリー工場」の着工を開始したと発表した。

3億㌦を投じる新工場の鍬入れ式＝写真＝にはノベリス幹部や自治体幹部などが訪れた。ノベリスは2020年からの量産開始を目指して建設を進めていく。

ベトナムに印刷機用感光体工場建設

三菱ケミカル

三菱ケミカルはこの

UACJは16日、スポーツを通じて次世代担う青少年の育成を図ること目的に、東京ヤクルトスワローズと野球に関連する社会貢献活動を実施したと発表した。深谷製造所が立地する深谷市のリトル

12日には深谷市のリトルリーグチームに在籍する少年少女を対象とした「UACJ野球教室」＝写真＝を開催し、124人の小学生が参加した。教室で

アルミ圧延品

3月輸入5.3%減

板増加も押出と箔減

アルミ圧延品（板・押出・箔合計）の3月輸入量は前年同月比5・3%減の1万3890㌧だった。板は増加を示したものの、押出と箔は前年同月割れだった。

品種別では板類が9・2%増の7434㌧。中国材が2054㌧（24・6%増）となったほか、韓国材が1889㌧（12・1%増）にそれぞれ拡大。タイ材も1213㌧（4・6倍）に急増した。

押出類は19・5%減の2811㌧へと減少した。主力の米国材が826㌧（29・2%減）となったほか、タイ材が454㌧（15・3%減）、中国材も359㌧（41・6%減）に落ち着いた。ベトナム向けは505㌧（42・3%増）だった。

箔は16・3%減の3646㌧。全体の8割を占める中国材が2910㌧（17・5%減）に落ち込んだことが全体をけん引した。

的とし、2017年10～12月四半期に35m豪㌦を投資して開始・実施中である鉱石処理能力向上プログラム「NEXT」の結果、2018年1～3月四半期のNdPr生産体積量が9%増加したと発表した。Lynas社によると、NEXTプログラムは処理施設の信頼性と実

理・粗銅製錬プロジェクトに投資し、コルウェジ市郊外で建設を開始した。

当該プロジェクトは銅精鉱処理能力を年間40万と設定しており、粗銅を年間12万㌧生産できる。投資予定額は4.4億㌦で、2年以内に建設を終えて稼働す

フル稼働後、年間銅カソード8万㌧、水酸化コバルト精鉱8,000㌧(金属量)を産出することができる。

当該プロジェクトにおけるインフラ設備の建設は、2020年4月に完了する予定。

中国有色鉱業集団社は、51%の権益を保有し、コン